

# Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 70



R3.9.21

今月のキーワード

とちぎっ子学習状況調査

タブレットの活用

今年5月に実施されたとちぎっ子学習状況調査の結果が返却されました。各学校の成果や課題については既に共有されていることと思いますが、市全体の傾向や課題も共有し、共通点については今後の指導に生かしてください。また、後半では、9月の要請訪問で伺った際のタブレット活用例を紹介したいと思います。家庭学習と学校の授業を結び付けて授業を充実させたり、評価に生かしたりするなど、幅広い活用をお願いいたします。

## 「とちぎっ子学習状況調査」の結果（市平均）

市として、今年度の全体的な傾向をお知らせします。

- 教科の正答率（全体、基礎・基本、思考・判断・表現）は全て県平均を5ポイント以上上回りました。
- 領域別正答率は「聞くこと・読むこと・書くこと」全てにおいて県平均を上回っていますが、特に「読むこと」「書くこと」においては5ポイント以上上回りました。
- 観点別正答率も、全て県平均より5ポイント以上上回りました。



### ＜課題が見られた設問について＞

- 「対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題（※下枠参照）」や「対話の流れに合った英文を書く問題」では、無解答率が約2割に上りました。情報や考えなどを即座にやり取りしたり、相手の発言の内容を踏まえ、関連した質問や意見を述べたりするなど、会話を継続させる活動を取り入れていくことも効果的です。
- 「聞くこと」「読むこと」の領域で、要点や概要を捉えて解答する問題に課題が見られました。
- 聞いたり読んだりした内容を理解するに留まらず、内容を理解したうえで自分の意見や考えたことを表現したり要約したりする活動などを日々の授業の中に取り入れてきましょう。

### ※聞くこと 対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題より抜粋

下のホームページ画面をもとにして、チャイムの部分に入る適切な英語を3語以上の1文で書きなさい。

A: Look at this. We can see two new animals at Chuo Zoo.

B: Wow, this panda is cute and this koala is cute, too. I like pandas.

What is the panda's name?

A: Its name is Meimei. Meimei is a girl. She is two years old. She is from China.

B: Really? When did she come here?

A: (チャイム)

ホームページ画面→

名前：メイメイ

誕生日：2019年2月2日

年齢：2歳 性別：メス

出身国：中国

入園月：2021年3月



名前：ココ

誕生日：2017年2月7日

年齢：4歳 性別：メス

出身国：オーストラリア

入園月：2021年4月



## タブレットの活用

<3年生 Unit6 アルファベットとなかよし> 吉田西小3年生

### 学習の流れ

- ① ALTが発音するアルファベット(1文字)の音を聞く。→
- ② 聞こえたアルファベット大文字を身の回りから探す。→
- ③ タブレットで撮影して保存する。→
- ④ 先生に見せ、正しいかを確認をする。→
- ⑤ 自分で保存した画像を先生のタブレットに送る(エアドロップ)。→
- ⑥ 黒板に映して発表する。



②の場面



←オリンピック競技に関する写真とともに、大文字を子どもの目が届く場所(タブレットで撮影しやすい位置)に啓示していました。



④の場面



⑤の場面



⑥の場面

### アルファベットをさがそう②



がっこうの中に、アルファベットはあるでしょうか。みつけてみましょう。

わたしは、おんがくしてアルファベットをみつけました。

「しもつけ未来学習テキスト」の2・4ページに「アルファベットをさがそう」という項目があります。タブレットで撮影した写真などを記録しておき、学びの足跡を残しておくこともおすすめです。



<6年生 Unit5 What country do you want to visit?> 薬師寺小6年生(動画をもとに授業研究会)

「友達に“行ってみたい”と思ってもらえるように、おすすめの国を紹介する」という目的で、タブレットを使いながら、一人ずつグループ内発表を行いました。動画は、先生方の授業研究会で活用したり、子どもたち自身の自己評価として活用したりすることもできます。



発表の様子



授業研究会の様子

子どもたちの姿(1回目と2回目の発表の変容)と評価規準をもとに、なぜA(B)と評価できるかなど、熱心に協議されていました。「活動の目的(～のために)を示すことで思考・判断・表現を見取ることができる」ことを確認するとともに、改めて評価規準の大切さや難しさも感じました。具体的な子どもの姿をもとに先生方同士が確かめ合いながら共通理解を図っていく研修は大変有意義でした。

